

IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」を活用した授業実践  
—「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して—

愛媛県立今治西高等学校伯方分校  
林 俊宏

1 主題設定の理由

本校生徒のほぼ全員（97%）がスマートフォンを所持しており、長時間の使用（平日1日の平均使用時間3時間以上の生徒49%）による生活への影響（睡眠または学習時間が減った生徒38%）やトラブル（トラブルの経験がある生徒約25%）が問題となっている。（資料1参照）また、IPAのウェブページには、情報モラル・セキュリティに関する動画や、作品作りを通じた授業実践例が紹介されており、授業での活用が容易であることや、作品をコンクールに出品することが、生徒の意欲を高め、主体的・対話的で深い学びの実現につながり、本校の抱える問題を改善するきっかけになると考え本主題を設定した。

2 概要

本研究を、「社会と情報」の授業2時間で行った。

(1) 1時間目（資料2参照）

情報モラル・セキュリティに関する事前アンケートを実施した後、IPAのウェブサイトから2本の動画「本当にあったセキュリティの話」「親と子のスマホの約束」（資料3参照）を視聴した。その後「身の回りで起こったパソコン・スマホに関するトラブル」についてKJ法により話し合いを行い、結果を発表させ、意見の集約を行った。



(班別協議の様子)



(代表者発表の様子)

(2) 2時間目

IPAのウェブページから、コンクール応募作品の作成に関するポイントを確認させ、昨年度の受賞作品を鑑賞させた。その後、情報モラル・セキュリティに関する標語およびスマホのルール作りを行った。標語は出品するとともに文化祭で展示し、スマホのルールについては家庭に持ち帰らせ、話し合いをするよう指導した。最後に、情報モラル・セキュリティに関する事後アンケートを実施した。



(文化祭展示の様子)

### 3 結果と考察

#### (1) 1時間目の結果

KJ方法による話し合いでは、少なくとも2つ以上の意見をメモにして貼り付けるよう指示していたため、全員が班内で発表することができた。話題となった内容は「迷惑メール」「ネット上での誹謗・中傷」「写真の無断掲載」「危険なウェブサイト」(資料4参照)であった。いずれも身近な内容であったため、他の班の発表に対しても、共感する意見や、改善策・対応策を発表することができた。

#### (2) 2時間目の結果

作成した標語は、話し合いを行った内容をもとに作られたものが多かった。(資料5参照)標語作りを通して、情報モラル・セキュリティに関する問題と向き合い、真剣に考える機会を得ることができたが情報モラル・セキュリティに関するトラブル等の特徴をとらえて、注意を喚起させるような標語がより増えてほしいと感じた。パソコン・スマホのルール作りでは、「親と子のスマホの約束」の動画を参考にしたものがあった。長時間の利用を制限するというルールを書いたものが少なく、残念であった。

#### (3) 考察

事前および事後アンケート(資料6、Q1～Q3参照)では情報モラル・セキュリティについての知識量を測る問い(Q1)に対して事前から事後で、やや増加がみられたが授業で扱った内容を書き渡らしている生徒が多く、十分に定着しているとはいえない状況であった。トラブルの対処法について確認する問い(Q2)に対して、事前から事後で改善がみられたが「あまり知らない」と答えた生徒が依然として25%程度いた。スマホ等のルール作りに関する問い(Q3)では、事後であっても「ない」または「あまりない」と書いた生徒が45%程度おり、特にルールを作らず今のままの使い方の良いと考えている生徒が半数近くいることが分かった。このような結果となった原因として、体験や実感したことではないと定着しにくいことが考えられる。

### 4 まとめ

情報モラル・セキュリティに関する話題は生徒にとって身近な内容であり、トラブル等について、自分自身の言葉で発表する姿がみられた。また、作品をコンクールに出品することが「主体的・対話的で深い学び」につながるということが分かった。(資料6のQ4参照)しかしながら、情報モラル・セキュリティに関する話題は多岐にわたっており、生徒の授業後の感想(資料7参照)も様々な内容に触れているが、もう一步考察を深めてほしいものが多かった。また、より具体的な場面を想定して、その解決方法を知りたいという意見が多かった。したがって、作品を出品する際に、テーマをしぼりそのテーマについて身近な場面を想定して考えさせることが良い作品作りや、より「深い学び」につながると感じた。情報技術は日々進歩しており、生徒が新たなトラブルに遭うかもしれない。また、扱う題材によっては生徒の方が知識豊富な場合もある。したがって、常に新しい情報技術に関心を持ち、生徒の興味・関心を引くことのできる教材開発をしていく姿勢が大切であると感じた。

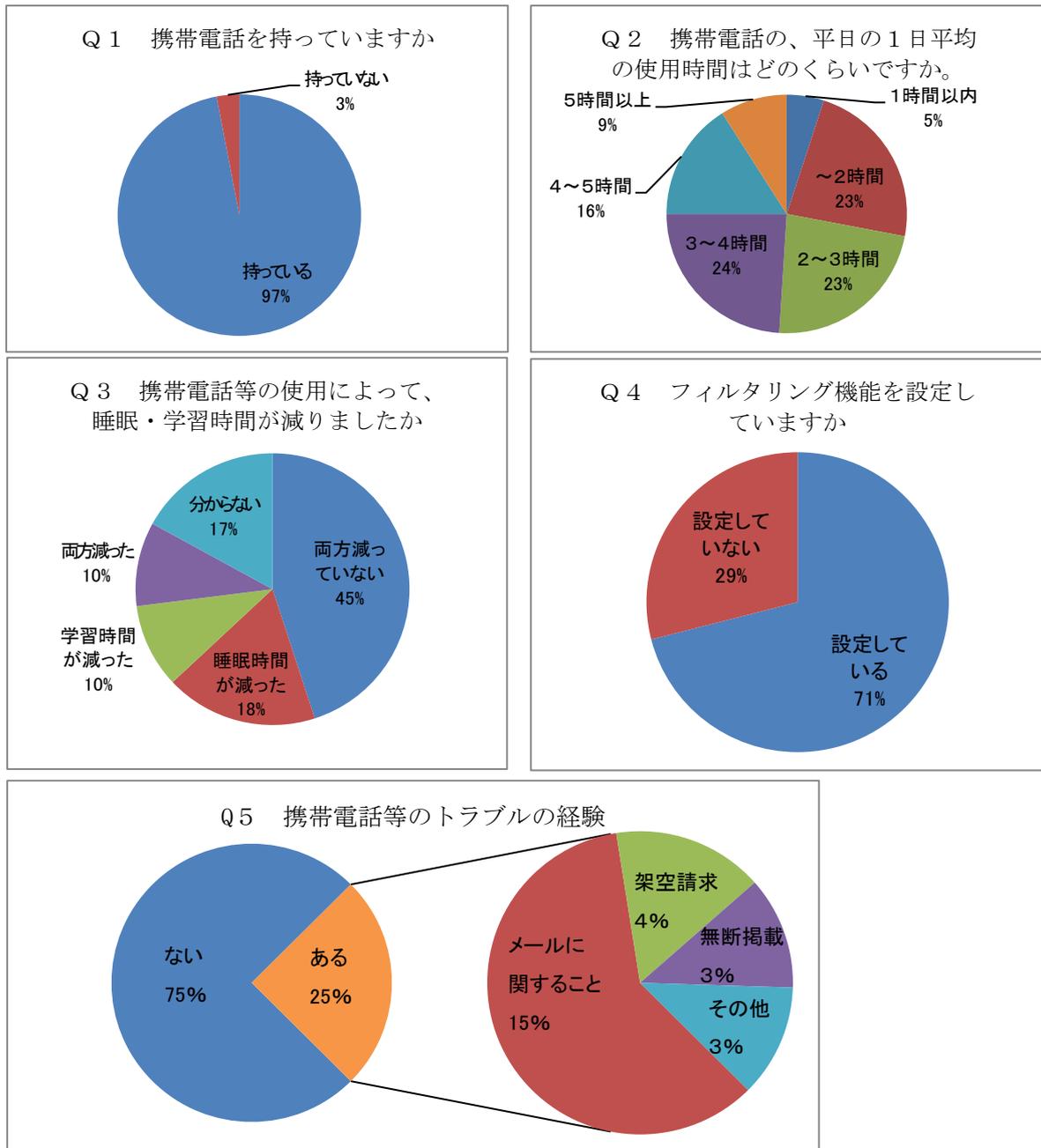
#### 参考URL

“ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール”。

<https://www.ipa.go.jp/security/event/kyogo/index.html>

資料1 携帯電話等に関するアンケート調査

(全校生徒 99 名対象、5月14日付け高校教育課からの事務連絡により実施)



資料2 2本の動画の概要

「本当にあったセキュリティの話」(約9分)

女子高校生3人組が身の周りで起こったトラブルについて話し合うというストーリー。出会い系サイトの危険性や、なりすましメールや悪意のある書き込みは処罰の対象となる可能性があること、無料サイトからウイルスに感染し、個人情報が出た事例等を扱っている。

「親と子のスマホの約束」(約12分)

ペアレンタルコントロール(子どもの安全のために、保護者がスマホの設定を調整すること)により、家族が適切なスマホ利用をするようになるというストーリー。スマホの長時間利用による日常生活への悪影響や、ゲームサイトでの高額な課金の問題、私的動画のアップにより個人が特定されるといった問題を扱っている。

## ( 社会と情報 ) 学 習 指 導 案

授業者 林 俊宏

学科	普通	学年・組	1年1組	日時	9月5日	教室	視聴覚	使用教科書	最新社会と情報(実教出版)
----	----	------	------	----	------	----	-----	-------	---------------

単 元	情報モラルと社会のルール		
指 導 目 標	1 情報社会と人との関わりについて理解する。 2 情報モラルを養い、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	指 導 計 画	1 個人に関する情報の管理と保護……………2時間 2 情報を扱う責任とモラル……………3時間 (本時はその3時間目) 3 知的創作活動による知識の創出と社会での活用 ……………2時間

本時の指導

主題(教材)	コンクールに標語を出品しよう。			
前時の課題	情報の管理と保護および責任とモラルについて復習しておく。			
目 標	1 情報モラル・セキュリティに関するトラブルが身近にあることを実感させる。 2 標語コンクールへの出品を通して、情報モラル・セキュリティに関して、適切な対応ができる実践力を身に付けさせる。			
指 導 過 程	学 習 活 動	時間	指導上の留意事項	資料、評価基準等
	1 本時の目標を確認する。 2 事前アンケートに答える。 3 動画を視聴する。 (1)「本当にあったセキュリティの話」を視聴する。 (2)「親と子のスマホの約束」を視聴する。	5分 15分	・本時の目標を明確に理解させる。  ・身の周りで同様なことを経験したことがないか確認させる。	アンケート  【評価基準】 ○情報モラル・セキュリティについて関心を示しているか。 (関心・意欲・態度)
	4 身の回りで起こったパソコン・スマホに関するトラブルについて考える。 (1) 班別で話し合いを行う。 (2) 発表を行い、意見を集約する。	25分	・自分の意見を書いたメモをワークシートに貼らせる。 (KJ法による) ・トラブルにどのように対応すればよかったのか班全員に考えさせる。 ・同様なトラブルがなかったか発表させる。	【評価方法】 ○行動観察 【評価基準】 ○自分の考えを整理して発表したり、班員と協力して意見を集約することができるか。 (思考・判断・表現)
	5 本時のまとめを行う。	5分	・正しい知識がトラブル防止につながることを確認させる。	【評価方法】 ○ワークシートの記述内容 ○発表内容
	考 備	生徒数 16名 (男子8名 女子8名)		

#### 資料4 班別協議で話題となった主な内容および対応策

##### 1 迷惑メールが大量に送られてきて、嫌な気分になった。

- ・ 推測されにくいメールアドレスを使う。
- ・ メールアドレスを変える。  
(変えると知人に連絡する必要がある、知人の手間をとらせるという意見もあった。)
- ・ メールアドレスをむやみに公表しない。
- ・ 知らないサイトや怪しいサイトの会員登録をしない。  
(あるサイトにメールアドレスを入力すると、架空請求されるようになったという意見に対して。)
- ・ 迷惑メールがきても無視する。  
(迷惑メールでも受信者にパケット代が発生することを伝えると、大きな反応があった。)
- ・ 迷惑メールをブロックする設定にする。  
(設定をしているにも関わらず、迷惑メールが届くという意見があった。)
- ・ 買ったお店で相談する。  
(最初の設定のまま使っていることが多かった。)
- ・ 登録したメールアドレスからしか受け取らないようにする。  
(制限しすぎて使いにくいのではという意見があった。)
- ・ チェーンメールは無視する。気にしない。
- ・ 急に迷惑メールが届くようになることがある。

##### 2 オンラインゲームでの会話やSNSで悪口等を言われた(書き込まれた)。

- ・ 無視する。  
(やられっぱなしでは腹が立つという意見があった。)
- ・ かわいそうな人だなど思う。
- ・ 知っている人の書き込みなら、保護者や学校に相談する。
- ・ ブロックする。  
(ブロックしてもまた別のアカウントを作って攻撃してくるかもという意見があった。)
- ・ 通報する。
- ・ 警察に相談する。

##### 3 写真が無断で掲載された。

- ・ すぐに削除してもらおうようにする。
- ・ 友達同士でどの写真は載せて良いのか事前に確認しておく。
- ・ 学校や警察に相談する。

##### 4 あるサイトを閲覧しようとして、警告が表示されたことがある。

- ・ 怪しいサイトは見ない。
- ・ 「無料」という言葉に気を付ける。
- ・ 海外のサイトを見ない。
- ・ 安全が保障されているサイトのみ見る。
- ・ その警告が偽物で、指示に従うと被害に遭うこともある。

## 資料5 生徒作品（一例）

### 1 情報モラル・セキュリティに関する標語

- ・ 「ネットサーフィン 危険な波に 飲まれるな」

サーフィンは奥へと進んで行けば強い波も多くなり危ないことから、ネットサーフィンもサイトを渡っているといつの間にか、危険なサイトにつながっていったり、架空請求にあたりるので注意してほしいという気持ちを込めて作りました。

- ・ 「一言の 本当の重さ わかってる？」

一人ひとり、一つ一つの言葉の重さの感覚は違います。なので、簡単に言ってしまう言葉でも、相手の気持ちになり、一度立ち止まってみてほしいという思いを込めて作りました。

- ・ 「『送信』を 押した瞬間 消せぬ過去」

何気なく送信ボタンを押しているけど、一度押してしまった送信ボタンを取り消すことはできないということを伝えたいと思い作りました。

- ・ 「考えて見えない相手の本当の顔」

相手の顔が見えない分簡単に相手を傷つけるかもしれないし、なりすまし等の被害にも合うかもしれないから注意してほしいという気持ちを込めて作りました。

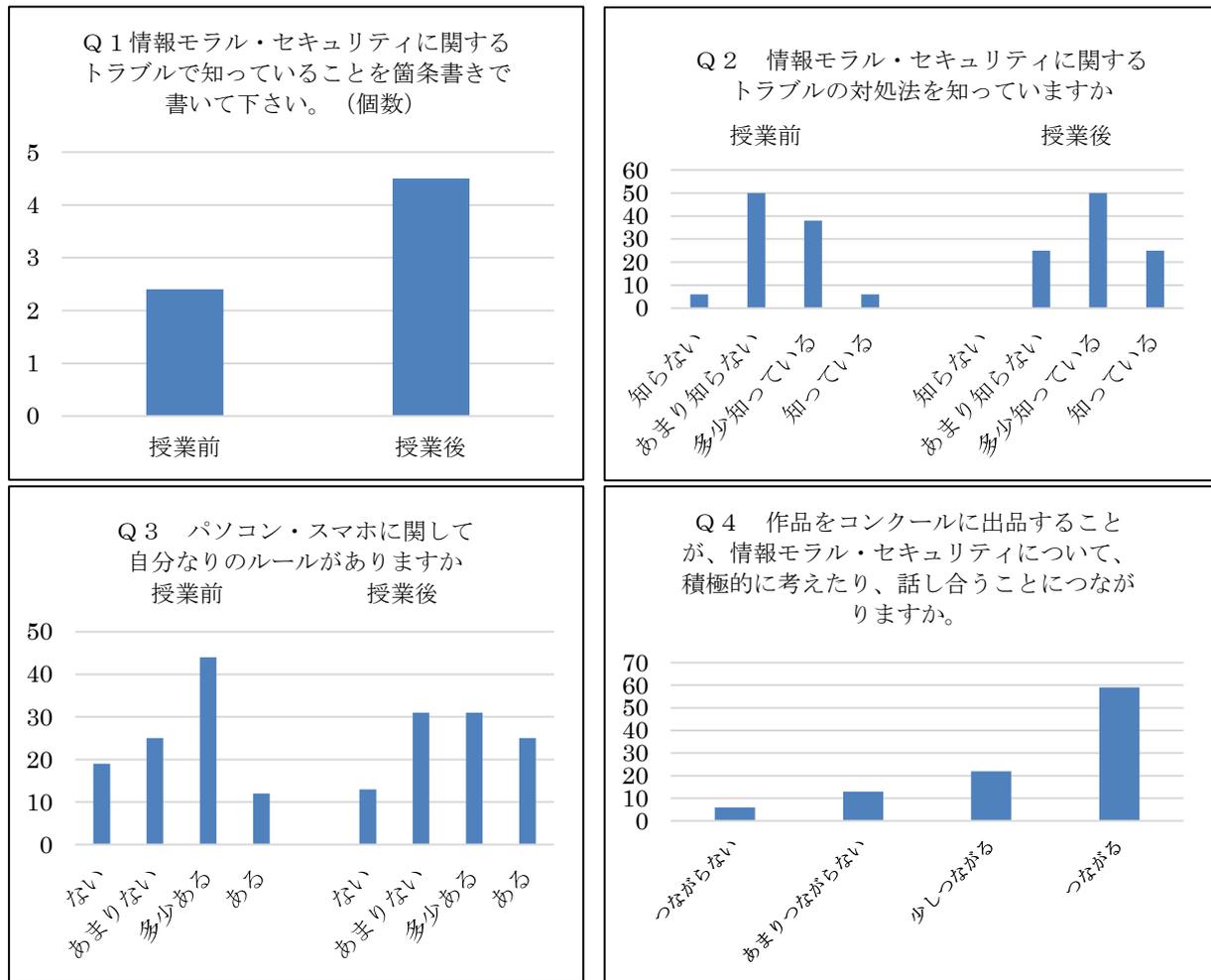
- ・ 「考えて ネットの楽しさに潜む畏！」

僕は、今年にスマホを買ってもらいました。ネットで動画を見ているときに架空請求をされ、楽しい気持ちが一転して、とても不安な気持ちになりました。このようにネットには楽しいこともあります、気を付けなければならないこともあるので、注意してほしいと思い、この標語を作りました。

### 2 パソコン・スマホの約束

- ・ 変なサイトを開かない
- ・ 課金しない
- ・ 食事中は使わない
- ・ ネットで知り合った人に会わない
- ・ 自分で勝手に判断しない。
- ・ 時間を決めて使う
- ・ 悪口を書かない
- ・ 迷惑メールが来たら見ずに消す
- ・ よく考えてクリックする
- ・ ゲームは一日二時間までにする
- ・ 写真を載せるときは許可をとる
- ・ 送信前にメッセージをもう一度確認する
- ・ 22時以降のスマホの使用は控える
- ・ つぶやきを誰も見てないなんて考えない
- ・ 暗いところで使わない
- ・ 勉強などやるべきことをやった後に使用する
- ・ イライラした状態で書き込まない
- ・ 学校では電源を必ず切っておく
- ・ 友達同士で夜の何時まで使用するか決めておく

資料6 情報モラル・セキュリティに関するアンケート



資料7 授業を受けての感想や自身の変化および要望について書いて下さい。

- ・ 私は今まで気軽にアプリの利用やサイトの閲覧を行っていましたが、個人情報の流出など取り返しが付かない被害を受けることが怖いと思いました。
- ・ インターネット上には、様々なトラブルがあるということを知った。どのようなトラブルがあるのか知らないと、意識してないうちに被害に遭うこともあるので、今後もしっかりと勉強していきたいと思いました。
- ・ インターネットは楽しくて便利だけど、その分リスクがあるのでルールを決めて使うことが大切だと改めて分かった。被害に遭ったときは一人で悩まず、親に相談する必要があるため、日頃からコミュニケーションをとっておくことが大切だと思いました。
- ・ 情報モラル・セキュリティに関するトラブルについて話し合いができて良かったです。班の人も、私と同じような被害を受けていたので対策について真剣に話し合うことができました。
- ・ スマホを使い過ぎて睡眠不足になり、授業に集中できなくなるという悪循環に陥るときがありました。ルールを決めて使用した方が精神的にも良いと思うので、本当に楽しむためにも、適切な使用をしたいと思いました。
- ・ 様々なトラブルについて話し合いが行われましたが、解決策についてもう少し詳しく知りたいと思いました。また、どのような技術で犯罪を行うのかということについても詳しく知りたいと思いました。